

国指定天然記念物『喜界島の隆起サンゴ礁上植物群落』

指定 10 周年記念

&

目指せ！ 日本ジオパーク認定！

喜界島の 海辺の植物三二図鑑

喜界町教育委員会



国指定天然記念物

『喜界島の隆起サンゴ礁上植物群落』

指定日：2014 年（平成 26 年）3 月

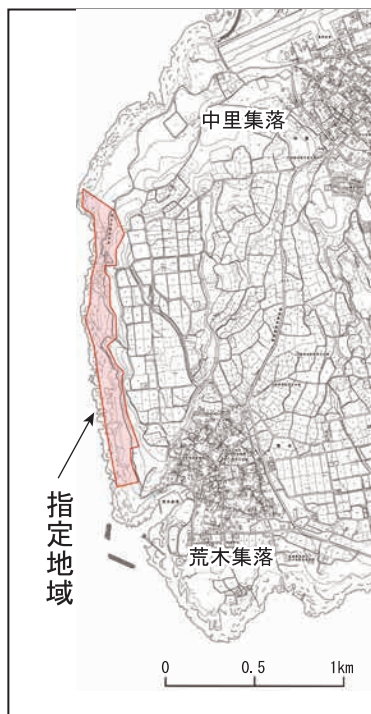
指定地：荒木中里遊歩道周辺一帯

【隆起サンゴ礁上植物群落とは】

隆起サンゴ礁上に生育し、互いに関連し合う様々な植物から成る社会のことです。

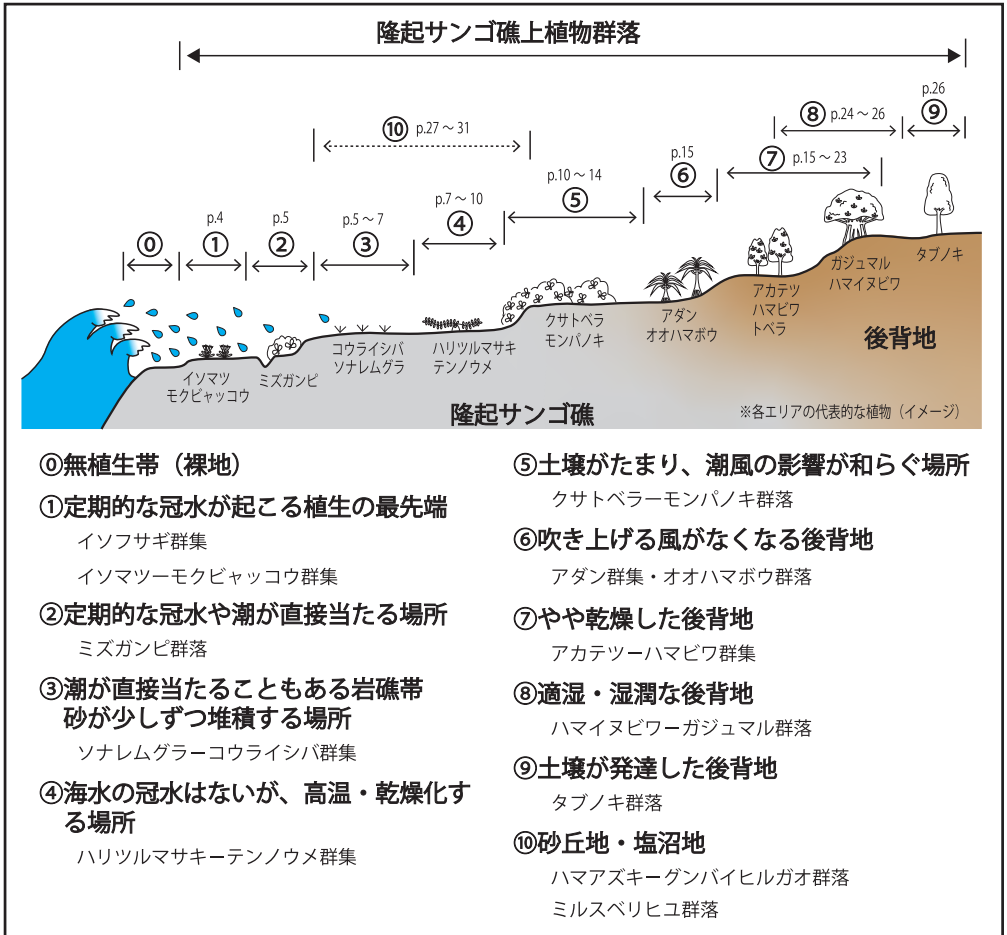
一般的に、隆起サンゴ礁地帯は海水や潮風を強く浴びたり、表土や保水性もなく、高温や乾燥が続いたりと植物にとってはかなり過酷な環境です。それでも植物は、それぞれの条件に適応した植物が群落を形成し、生育環境の厳しい海際から潮風が和らぐ内陸に向けて豊かな生態系を形成していきます。

喜界島は、世界でもトップクラスのスピードで隆起しているため、海岸線はすべて完新世（約 1 万年前～現在）の比較的新しい隆起サンゴ礁で縁取られています。そして、サンゴ礁の世界的な北限に位置しながらも、その隆起サンゴ礁上に、多様性が高い貴重な群落を観察することができます。特に、荒木～中里海岸一帯は、その植生の連続的な変化が広域に残されている全国的にも希少な場所であることから、平成 26 年に国指定天然記念物『喜界島の隆起サンゴ礁上植物群落』に指定されました。



昭和 48 年（1973）、「町民の宝」として守り始めた「景勝保護区」の植生が、平成 26 年（2014）、「国民の宝」になりました。

【この図鑑の使い方】



隆起サンゴ礁上植物群落概略図

- (1) 隆起サンゴ礁上と砂浜に生育する主要な植物 90 種を掲載しています。
- (2) 環境の変化と群落の移り変わりがわかるよう、海岸の汀線付近から内陸に向かって上図の 10 エリアに分けて紹介しています。
- (3) 植物群落の状況とあわせ、生育している地形・地質・環境にも注意して観察すると、より一層その群落が理解できます。
- (4) 実際のフィールドでは、植物がエリアごとにきっちりと分かれているわけではありません。混在しながら徐々に移り変わっていきます。
- (5) 植物の方言名については、巻末に記載している文献を参考にしました。方言名につけている番号は文献番号と一致します。



イソフサギ

1. イソフサギ (*Blutaparos wrightii*)

花期：7～11月

方言名：-

★和名の由来は、「磯」を「塞ぐ」ように生える様子から



花床



イソマツ

2. イソマツ (*Limonium wrightii*)

絶滅危惧Ⅱ類 (V U) (環)

喜界町自然保護条例指定植物

花期：8～11月

方言名：4) イスマツ

★喜界島ではピンク色の花が咲くが、他島では黄色のものありウコンイソマツと呼ばれる



花



モクビャッコウ

3. モクビャッコウ

(*Crossostephium chinense*)

絶滅危惧Ⅱ類 (V U) (環)

喜界町自然保護条例指定植物

花期：12～3月

方言名：-

★園芸植物として栽培されているものもある



花



ミズガンピ

4. ミズガンピ (*Pemphis acidula*)

喜界町自然保護条例指定植物

花期：4～10月

方言名：-

★ 潮だまりや
入り江の縁に
生えることが
多い



花



コウライシバ

5. コウライシバ

(*Zoysia pacifica*)

花期：5～7月

方言名：1) サーサー・ササンサー、
11) ササンダー

★ 志戸桶集落や上嘉鉄集落などではかつて燃料に利用したと言われる。掘り上げてすぐ燃えたので急場のたき物として重宝がられた



ソナレムグラ

6. ソナレムグラ

(*Hedyotis strigulosa*)

花期：4～11月

方言名：-

★ 和名の由来
は、「磯馴れム
グラ（草むら）」



花



ハナカモノハシ

7. ハナカモノハシ

(*Ischaemum aureum*)

花期：8～10月

方言名：-

★ 和名の由来は、穂が鴨のクチバシのように2つに分かれている様子から



花



ホソバワダン

8. ホソバワダン

(*Crepidiastrum lanceolatum*)

花期：9～11月

方言名：1) ニガナ (荒木)、5) アマナ、6) アマナ・ニガナ

★ 葉は少し苦いが食用となる。日差しが強い時期は夏枯れするか葉が硬くなる



花



イワタイゲキ

9. イワタイゲキ

(*Euphorbia jolkinii*)

花期：春～初夏

方言名：-

★ 早春に黄色い花をつける。夏には枯れてしまうが、紅葉も美しい。有毒のため汁液に触れると皮膚がかぶれる。また、誤食すると口内の炎症や嘔吐・下痢を起こす



花



ハマボッサ

10. ハマボッサ (*Lysimachia mauritiana*)

花期：3～6月

方言名：5) アーザー



花

★ 和名の由来は、「浜払子」（払子は仏具の一種）



テンノウメ

11. テンノウメ (*Osteomeles anthyllidifolia*)

絶滅危惧Ⅱ類 (V U) (環) ・ 県指定希少野生動植物種
喜界町自然保護条例指定植物

花期：3～4月

方言名：5) テンバイ、12) タナバー
(伊砂) ・ テンバイ (島中・赤連)



花

★ かつては燃料に利用された。園芸目的乱獲された時期もある



ハリツルマサキ

12. ハリツルマサキ (*Gymnosporia diversifolia*)

絶滅危惧Ⅱ類 (V U) (環)

喜界町自然保護条例指定植物

花期：初夏

方言名：5) マッコー



花



果実

★ 盆栽などに利用された。赤いハート型の果実をつける



クロイゲ

13. クロイゲ (*Sageretia thea*)

花期：10～11月

方言名：5) アシタニニ・クルニニ、10) クルンボー

★ブルーベリーのような果実がなり、かつては子供のおやつとしてよく食べられていた。ハリツルマサキと似るが、葉が薄く鋸歯が細かい点で区別できる



ボタンボウフウ

14. ボタンボウフウ

(*Peucedanum japonicum*)



花



若芽

花期：春～秋

方言名：4) イスミー（早町）、カマギー（志戸桶）、ハマグボー、ハマゴボウ（荒木）、ハマニージン 5) ハマニージン・ハマグボー、6) サクナー

★葉は独特の苦みを持つが、天ぷらなどにするととても美味しい



シロバナミヤコグサ

15. シロバナミヤコグサ

(*Lotus taitungenensis*)

花期：3～5月

方言名：-

★ミツバノコマツナギ（ナハエボシグサ）と似るが、葉の先端が尖っている



花

るので区別できる。隆起サンゴ礁上の砂の溜まった場所で見られる



オキナワチドリ

16. オキナワチドリ (*Hemipilia lepidum*)

絶滅危惧Ⅱ類(VU)(環)

花期：2～3月

方言名：-



花

★ 小型のランの仲間。和名の由来は、花の形を飛ぶ千鳥に見立てたことによる。稀に白い花もある。喜界島では山中にも生育している



ヒメハマナデシコ

17. ヒメハマナデシコ

(*Dianthus kiusianus*)

花期：5～10月

方言名：-

★ ピンクの可愛い花をつける。本州～九州には似たハマナデシコが分布する



ツルボ

18. ツルボ (*Barnardia japonica*)

花期：8～9月

方言名：-



花

★ 別名「参内傘 (サンダイガサ)」。貴族が朝廷に参内する時に使用した長柄の傘に似ていることから



テッポウユリ

19. テッポウユリ

(*Lilium longiflorum*)

喜界町自然保護条例指定植物

花期：4～5月

方言名：1) ユイ、4) ユリイ、ユリイ
(中里)・ユインバー、5) ユイ

★阿伝集落では三月三日にオオシ
マウツギと共に墓や神棚、床の間に
活けるのが通例であった



シマアザミ

20. シマアザミ

(*Cirsium brevicaule*)

花期：2～5月

方言名：4) アジーカア・アゾー
カア、10) アーゾーガー、12) アダ
ンゴー(湾)・アゼーニャー(中間)

★葉や根は食用になる。花は大き
く見えるが、小さな花の集合体。喜
界島では花は紫色だが、奄美大島で
は白色のものが多い



モンパノキ

21. モンパノキ

(*Heliotropium foertherianum*)

喜界町自然保護条例指定植物

花期：3～8月

方言名：1) スーギ(中里)、4) シュ
ギィ、5) イシュギ、12) イスギー

(伊砂)



花

★かつては、樹の幹
から水中めがねの枠
を作った



クサトベラ

22. クサトベラ

(*Scaevola taccada*)

喜界町自然保護条例指定植物

花期：2～12月

方言名：1) シューキ (早町)・イ
シュキ、4) イシュギ・シュウギ
5) イシュキ、12) イスギー (伊砂)・



花

イスヒー (中間)
★ イザリの際に
まじないとして葉
を竹かごにいれた



スナズル

23. スナズル (シマナネシカズラ)

(*Cassytha filiformis*)

花期：9～3月

方言名：1) ニナシハンダ (早町)、
5) ネナシハンザ、7) ネナシカズ
ラ・ネナシハンザ

★ 捨てられた漁網のように見える
がれっきとした植物で他の植物から
養分を吸って成長する。八月踊
りの歌詞にも登場する



テリハノイバラ

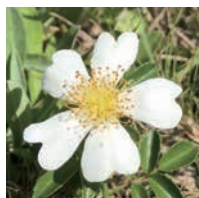
24. テリハノイバラ

(*Rosa luciae*)

花期：4～6月

方言名：4) ユザリ・ノバラ

★ 隆起サンゴ礁上を這うように生
えるバラの仲間。
綺麗な白い花を
咲かせるが、鋭
いトゲがあるので注意



花



オオシマノジギク

25. オオシマノジギク (*Chrysanthemum crassum*)

絶滅危惧Ⅱ類 (V U) (環)

奄美群島固有

花期：10～12月

方言名：5) ノギク



花

★ 島内ではあまり見られなくなってきている。県本土には似たサツマノギクが分布する



ヤンバルツルハッカ



花(上)・葉(下)

26. ヤンバルツルハッカ (*Leucas mollissima*)

花期：周年

方言名：-

★ トカラ列島～琉球にかけて分布。ヒメタツナミソウと同じシソ科でよく似た小さな白い花をつけるが、葉の形や大きさ・花のつき方が異なる



ハマオモト

27. ハマオモト (ハマユウ) (*Crinum asiaticum*)

花期：5～10月

方言名：1) フーガー (花良治)、4) イサネグサ・イザネグサ、5) ブラー、12) ブラー (伊砂・湾)

★ フガーは卵の意。イサネグサは伊実久の海岸に多かったことに由来。茎の薄皮を膨らませて風船にして遊んだ有毒のため食用不可



花



キツネノヒマゴ

28. キツネノヒマゴ

(*Justicia procumbens* ver. *riukiensis*)

花期：周年？

方言名：1) アーニンサー（志戸桶・赤連）、5) アーネンサー、8) ウナギンサ、11) ティンボッサー、12) ウナギンサー（早町）・ドゥクンサー（荒木）



花

★魚毒漁（イユユウラシ / 魚酔わせ）に利用された。ルリハコベ（ミツチャル）より効いたと言われる



ハマウド

29. ハマウド (*Angelica japonica*)

花期：3～5月

方言名：-

★花は白く大きなカリフラワーのように見える。食用されるアシタ



葉

バによく似ているが茎に赤いスジが入るので区別できる



ヒメキランソウ

30. ヒメキランソウ

(*Ajuga pygmaea*)

花期：3～5月

方言名：-

★紫色の小さな花をつける。地面



花

を這って広がるため、庭のグランドカバーとして利用されるともある



アマミヒトツバハギ

31. アマミヒトツバハギ

(*Flueggea trigonoclada*)

花期：5～9月

方言名：-

★「ハギ」と名がつくが「ハギ」の



花

仲間では無く、トウダイグサ科の植物。荒木中里遊歩道付近では比較的多く見られる



クサスギカズラ

32. クサスギカズラ

(*Asparagus cochinchinensis*)

花期：4～5月

方言名：-

★ アスパラガスの仲間で喜界島では希少。薬用として利用されることもある。琉球列島のものは「ナンゴ



花

クサスギカズラ」として区別することもある



ミツバノコマツナギ

33. ミツバノコマツナギ

(*Indigofera trifoliata*)

花期：通年？

方言名：-

★ 喜界島が北限で、奄美大島ではあまり見かけない。シロバナミヤコグサに似るが、緋紅色の花をつけ、葉の先が凹形になっているので見分けがつく。別名「ナハエボシグサ」

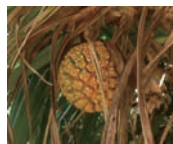


アダン

34. アダン (*Pandanus odorifer*)

喜界町自然保護条例指定植物

花期：6～8月



方言名：5) アダニイ、
12) アダネ

★かつては気根（アダナシ）から繊維をとり縄を作った。また、葉で風車などを作って遊んだ

雄花（上）・果実（下）



オオハマボウ

35. オオハマボウ

(*Hibiscus tiliaceus*)

喜界町自然保護条例指定植物

花期：4～9月

方言名：4) ユナキィ、5) ユナー・ユナギ、12) ユナー（花良治・島中・伊砂・赤連）

★樹皮から繊維がとれる。この繊維をハズと言ひ、畳の縁をつづる縦糸とした。また、縄や漁網、草鞋も作った



アカテツ

36. アカテツ (*Planchonella obovata*)

町指定天然記念物「アカテツ群（末吉神社・阿伝）」

花期：初夏

方言名：1) ハマツカシ、5) ハマカシ



葉

★防風林として屋敷周りに植えられた。実はおはじきの様にして子供が遊んだ。枝を折ると白い乳液がでてくる。新葉は茶褐色に輝いて美しい



ハマビワ

37. ハマビワ (*Litsea japonica*)



花期：7～9月
方言名：4) トンムー、5) トンムー

★アカテツとよく似ていて間違いやすいが、葉の裏の毛が多く、葉脈が飛び出ていることで区別できる



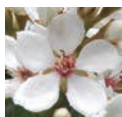
葉(上)・花(下)



シャリンバイ

38. シャリンバイ (*Raphiolepis indica*)

喜界町自然保護条例指定植物



花期：3～5月

方言名：5) テーチギ

★葉は枝先に車輪状に集まってつく。大島紬の染色に使う。マーサー遊び※の棒に最適



花(上)・葉(下)

※マーサー遊び：丸太を3cm程度に輪切りにしたものをマーサーと呼び、先が曲がった棒で叩いて転がすゴルフのような遊び。阿伝では、主に正月の遊びだった。大正末期ごろに自然消滅。(拵1990『喜界島風土記』p.160参照)



トベラ

39. トベラ

(*Pittosporum boninense*)

花期：3～5月



方言名：5) トビラ、12) トウビラ (湾・島中・中里)



★飼料や庭木として利用された。和名は節分の時に扉に挟む風習(扉木)があったことに由来

花(上)・
果実(下)